

教師ノート

日付 2020年 4月 5日

単元 イースター

テーマ うそ

タイトル 復活を知らせないためのウソ

テキスト マタイ28:11-15

参照箇所

暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)
第一コリント 15:14

AG 日曜学校教案参照箇所
小下1-5、小上3-6

□導入

あなたは自分がこまるからといって、ウソをついたり、作り話をしてしまったりしたことはありませんか？ 例えば、宿題が終わってないのに、怒られるのがイヤで「終わった」と言ってしまう。ともだちと遊びたくない時、「今日は家族で出かける」と作り話をして断る。

□ポイント1 祭司長たちは、兵士たちにイエス様の番をさせるようにしました

27章62～66節を簡潔に説明しましょう

イエスさまが墓に納められた次の日に、祭司長やパリサイ人たちがピラトのところに集まり、墓の番をするように命じてください、と依頼した場面です。イエスさまを十字架にかけた張本人である祭司長と律法学者たちは、弟子たちが死体を盗んで、「イエスさまは復活したのだ」とでっちあげを伝えることを真剣に怖れていたのです(小上3-6p310)。人々が復活を信じれば、イエスさまの影響力が以前よりも大きくなると考えたからです。ちなみにイエスさまの弟子たちは、イエスさまが復活すると話されたことさえ忘れ、死体を盗む勇氣など全くなかったばかりか、復活のニュースを聞いても信じられないほど弱きだったのです。なのに、祭司長やパリサイ人は安息日の律法をやぶってピラトの所に行くほど焦っていました。

👉メッセンジャーは、この時代のパレスチナはローマ帝国から直接派遣され駐在していた総督ピラトの支配下にあったことを理解しておきましょう。番兵はピラトの管轄下にあるローマ兵でした。祭司長や律法学者で構成される議会(サンヘドリン)はローマの支配下で内政を担当していました。

👉語句の説明:こどもたちにわかる表現の例

パリサイ人:規則(律法)を厳しく守る学者たち。聖書にはくわしいけど、規則だけにこだわって、他の人たちを見下げる態度だったので、それをイエスさまに批判され、対立していた。

祭司長:昔から受け継がれてきた地位で、いけにえをささげる儀式などを行なったり、人々の指導をしたりする立場の人たち。

封印:お墓の扉に印を押したひもや粘土をつけた。封印のある墓を開くと犯罪。

□ポイント2 兵士たちはイエス様が復活したことを知りました

28章1節～11節を説明しましょう。(👉メッセージ参考アウトラインでは、特に番兵たちの動きを中心に説明しています。「空の墓」については前々回のテキストで既に詳しく取り扱っています。)

👉「大きな地震が起こった」、「いなずまのように輝き」、「震え上がり死人のようになった」などは、こどもが興味を持ちやすい表現です。記事の臨場感が伝わるように、ダイナミックにお話ししましょう。

👉ここでメッセンジャーが理解しておくべきこと

- ①「死人のようになった」は、しばらく体が硬直して動けなくなった状態。
- ②石を動かしたのは、イエスさまが出るためではない。（すでに墓の中にイエスさまはいなかった。どの時点でイエスさまが復活したのかはわからない）
- ③マルコ・ルカの記事と照らし合わせると、天使が石をころがし、番兵が逃げたあと、女たちが到着したのだと考えられる。
- ④兵士たちは、ウソをついたのではなく、「起こった事を全部」報告した。

☆兵士たちは、どんな気持ちだったか、こどもたちといっしょに考えましょう。

□ポイント3 兵士たちはお金でうそを言うようにさせられました

祭司長たちは、兵士たちが言っていることが本当かどうかも確かめず、多額のお金を渡しました。（任務中に居眠りをした番兵は死刑になる可能性があったのに、兵士たちがお金をもらってウソを言いふらしたということは、相当たくさんのお金をもらったことが推察されます）彼らはキリストの復活を人々に知られないようにするのに必死だったのです。さらに総督さえも説得すると約束するほど、必死でした。兵士たちはイエスさまの体が弟子たちに盗まれないように墓の番をしていたのに、結局は彼ら自身が復活の目撃者となっただけでなく、自ら「イエスさまの体が盗まれた」と言いふらす皮肉な結果となったのです。

□結論 イエス様がよくえられたことを知っていながら、嘘だと言いつらす人たちがいました

祭司長たちは、イエスさまを裁判で有罪にし、十字架にかけて殺すという、悪い計画を実行して成功しました。ところが、イエスさまのチカラは、彼らの計画をはるかに勝るものでした。死を打ち破り、イエスさまはよくえったのです！ 勝利のイエスさまをほめたたえましょう！！

□適用

マタイがこの福音書を書いているとき（イエスさまの復活から約40年から70年が過ぎた頃）にも、祭司長たちの、ウソの作り話を信じている人がたくさんいました。たしかに、イエスさまが復活したことは、科学で証明できないし、物的証拠もありません。

☆あなたは、「イエスさまは復活した」と言っている聖書のことばを信じますか？ それとも、「復活なんてあるわけない」という世間のことばを信じますか？

☆13節の祭司長たちの作り話の矛盾点について、こどもたちといっしょに考えてみましょう（オマケ）

兵士たちが眠っていたのなら、どうして盗みにきたのが弟子たちだとわかったのでしょうか？ もし、盗みに来たのが弟子たちだと気付いていたなら、兵士たちはその場で弟子たちを捕まえたはずではないでしょうか？